

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

6 日本共産党

3 大会・中央委員会

(1) 中央委員会総会

八七年一年間に開かれた中央委員会総会は、第六～一〇回(第一七回大会以降の通算)と、第一回(第一八回大会以降の通算)の六回である。

第六回中央委員会総会

八七年二月九～一一日、党本部で開催された。

総会では、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、不破幹部会委員長が党務報告をふくむ幹部会報告を行い、ひきつづく討論では六三人が発言した。冒頭発言のなかで宮本議長は、売上税反対の一点で共同を広げて撤回に全力をつくすとともに、独自活動を強め、統一地方選挙での前進に結実させるようよびかけた。宮本議長は討論の最後にも発言し、その後、不破委員長が結語をのべた。

総会は、宮本議長の冒頭発言と補足発言、不破委員長の幹部会報告と結語、国民への「訴え」「公約違反の売上税導入、マル優廃止を国民の力で阻止しよう」を全員一致で採択した。

第七回中央委員会総会

五月三〇日～六月二日、党本部で開催された。

総会では、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、村上幹部会委員長代行が党務報告および決議案の提案理由をかねた幹部会報告を行ったが、このなかで、一一月下旬に第一八回党大会を開くことが明らかにされた。

討論はテーマ別という新しい方式でとりくまれ、(1)内外政局と大衆運動(二三人)、(2)選挙総括(支持拡大問題をふくむ、三二人)、(3)「機関紙拡大月間」のとりくみと党活性化の問題(二九人)、(4)財政問題(一〇人)の四つについて、計九四人が発言した(カッコ内は各テーマの発言者数)。

総会は、宮本議長の冒頭発言と討論のなかでの補足発言、村上委員長代行の幹部会報告と結語および中間発言、「第七回中央委員会総会決議」を全員一致で採択し、佐々木季男・寺前巖・中村宣夫の三名の中央委員を幹部会委員に補充した。また、緋田吉郎常任幹部会委員を統制委員会責任者に任命し、村上委員長代行の同委員会委員・責任者の任を解き、経塚行男・芝崎義一両中央委員を統制委員から解任した。

第八回中央委員会総会

八月二五～二六日、党本部で開催された。

総会では、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、村上委員長代行が党務報告とあわせて幹部会報告を行い、討論では、(1)選挙をふくむ情勢問題、(2)党勢拡大の全党運動について、延べ五〇人が発言した。宮本議長も、このなかで二回にわたって中間発言を行った。

総会は、宮本議長の冒頭発言と中間発言、村上委員長代行の幹部会報告と結語を、また、幹部会が提案した第一八回党大会の開催についての議案を全員一致で採択した。これにより、第一八回党大会は、十一月二五日に招集され、会場は伊豆学習会館とすること、大会の議題は、(1)中央委員会の報告と決議、(2)規約の一部改正、(3)中央委員会の選出、(4)その他とすることが決定された。

第九回中央委員会総会

九月一六～一七日、党本部で開催された。

総会では、宮本議長があいさつをかねた冒頭発言、村上委員長代行が「党勢拡大全党運動」を中心に幹部会報告を行った。冒頭発言、幹部会報告、大会議案については、(1)議案と冒頭発言の情勢・政局部分、(2)報告と冒頭発言の党建設部分の二つに分けて討議がなされ、延べ三六人が発言した。

総会は、大会決議案、規約改正案、冒頭発言、幹部会報告と結語をそれぞれ全員一致で採択した。同時に、河邑重光・聴濤弘・佐々木一司・佐々木陸海・藤本美代の五人の中央委員を幹部会委員に補充した。

第一〇回中央委員会総会

十一月二三日、党本部で開催された。

総会では、第一八回党大会にたいする宮本議長の冒頭発言、中央委員会の報告、党規約の一部改正についての報告を審議し、全員一致で大会議案として決定した。また第一七回大会期の統制委員会の活動報告、監査委員会の活動報告をうけ、全員一致でこれらを承認した。

なお、四月の入院以来病氣療養にあたっていた不破委員長が約半年ぶりに公の席に顔を出し、あいさつして注目された。

第一八回大会第一回中央委員会総会

十一月二九～三〇日、伊豆学習会館で開催された。

総会では、冒頭、宮本議長が発言し、中央に村上委員長を責任者とする党勢拡大推進委員会、中間地方選挙を重視するうえから金子書記局長を責任者とする中間選挙対策委員会を設置すること、指導方法を改善し、専門部による個別の電話指導をやめて機関の代表の線で統一的な指導を行うことなどを明らかにした。

総会は二九日の会議で、宮本議長以下の新人事を決定(役員の項を参照)し、幹部会委員五九人を選出した。また、総会は、三〇日の幹部会が選出した常任幹部会委員二人、准常任幹部会委員四人(役員の項を参照)、書記局人事、中央機関紙編集委員(河邑重光責任者)について報告をうけ、統制委員会(緋田吉郎責任者)、監査委員会(沢田肇責任者)を任命し、前大会にひきつづいて、一七大会一中総と同様の一〇の問題別委員会を設置した(本年鑑第五七集四五五～四五六ページ参照)。

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
